

ファンケル ニュースレター

2010.2.26 Vol. 18

ご質問・お問合せ(担当 広報・大塚)

TEL 045-226-1230

FAX 045-226-1202

HP www.fancl.co.jp

〒231-8528 横浜市中区山下町 89-1



特集

中国でファンケルが選ばれる理由

中国・香港で絶大な支持を得ているファンケルの無添加化粧品。先日、中国では旧正月にあたる春節を迎え、東京・銀座のファンケル銀座スクエアにも、中国からたくさんの観光客が訪れました。今月の特集は、今中国市場で脚光を浴びるファンケルの「無添加」について、私たちの考えと取り組みをご紹介します。

写真：春節の期間、ファンケル銀座スクエアを訪れる中国人観光客

中国・香港で絶大な支持を得ているファンケルの無添加化粧品。無添加化粧品のパイオニアとして、1996年に香港、2004年には中国での販売を開始し、今では現地の女性の間で無添加化粧品を使うことが一つのステータスとなっています。

2003年にオープンしたファンケルの旗艦店、ファンケル銀座スクエアには、連日、中国や香港を中心にアジア各地からのお客様が訪れ、化粧品やサプリメントを求める姿が見られます。“マイルドクレンジングオイル”や“洗顔パウダー”などをまとめ買いするお客様も多く、ファンケルの無添加化粧品に対するアジアでの評価を裏付けているようです。

中国や香港で、なぜここまでファンケルの化粧品が受け入れられたのでしょうか。それは、ファンケルが考える「無添加」の価値や、日本製品に対する信頼感が、経済が急成長する中で本物志向が高まっている香港・中国の女性のライフスタイルや価値観に合致したからに他ならないと私たちは考えます。

ファンケルが考える「無添加」とは何か、そしてその価値を維持するために私たちが続けている努力とはどういったものか、もう一度振り返ってみたいと思います。



中国市場でのファンケルWEBサイトのトップページ
ページ右上には「無添加。」の文字
<http://www.fancl.com.cn>

ファンケルの「無添加」が目指すものとは

ファンケルが追求するのは、本物の素肌美です。肌の美しさとは、潤い・キメ・ハリ・透明感のすべてが良好な状態にあることと考えられます。ファンケル総合研究所の安全性・品質研究センター センター長の松熊祥子は、「これら4つの要素に加えて、ファンケルがさらにこだわっているのは、**将来にわたって美しさが保たれるということ**です」と話しています。

女性は、早ければ10代から何十年もの間、かなりの数の化粧品アイテムを日常的に使用していきます。肌を健やかに保つ目的の基礎化粧品や、美しく見せるためのメイク用化粧品などですが、その使用自体が肌にとってはストレスとなる可能性があることを忘れるわけにはいきません。

「人間の皮膚細胞がどんどん老化していくのは、生きていくうえで仕方のないことですが、きれいに歳を取るために、肌に悪いものや老化を加速させる要因を突き止め、老化にどうやって打ち勝つか、どうしたら少しでも遅らせられるかを私たちは研究しています。紫外線、乾燥など、ドラスティックな変化を与えるものはよく知られていますが、それ以外にも様々な化学物質など、身の回りにあるものを見直していく必要があると考えています。化粧品にとどまらず、生活提案も含んだ考え方になると思います」(松熊)



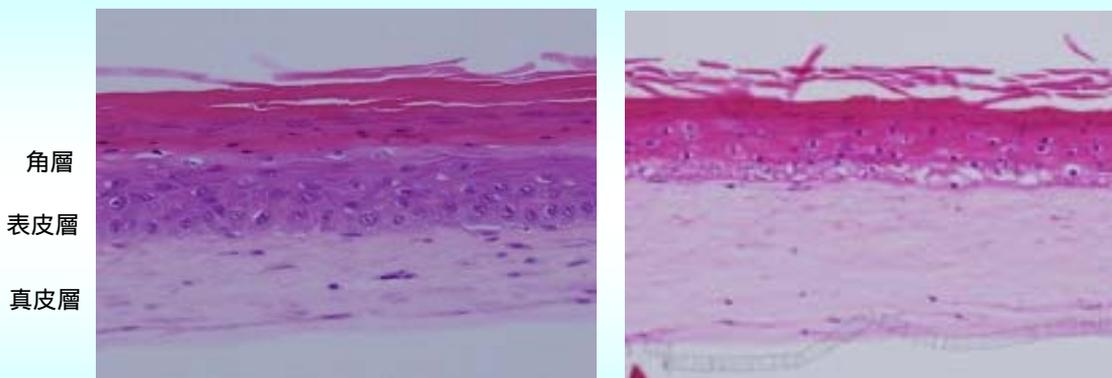
松熊 祥子 まつくま・しょうこ
株式会社ファンケル
総合研究所
安全性・品質研究センター
センター長

創業当時のファンケルの考え方は、アレルギー体質や敏感肌の人のために、当時の制度による「表示指定成分*」を添加していない、安心して使える化粧品を提供していこうというものでした。それが「無添加」という言葉の由来でもあります。しかし、研究を重ねることで、「無添加」は敏感肌の人のためのものだけでなく、本当の素肌美を目指す、すべての人に必要であることが分かってきました。

普段当たり前のように使っている酸化防止剤や防腐剤は、安全性も十分確認され、評価を得て何十年もの間使われてきたものです。しかし、たとえ微細なストレスであっても、何十年もの間、直接肌に使い続けると、目には見えない皮膚の奥深くの細胞に影響を与えることが確認できたのです。

*表示指定成分...当時の厚生省により指定されたアレルギー症状を引き起こしやすいとされる成分(防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収剤・タール系色素など)で、これらを使用した場合は製品に表示する義務があった。

三次元皮膚モデルによる評価



(左)防腐剤無添加

(右)防腐剤添加

パラベンにより微細ストレスを受けた細胞では、しっかりとした角層がつかられなくなる。

防腐剤によるストレスが細胞の老化を加速

いかに肌にストレスを与えずに、素肌を健やかに保つ環境を整えながら、効果的な成分を肌に届けるか この考え方を実践するために、実際に肌の内部でどのようなことが起こっているのかを解明し、化粧品に含まれる成分が肌に与える影響を知るために研究に取り組んでいるのがファンケルの無添加サイエンスです。

例えば、防腐剤のパラベンが皮膚にどのような影響を与えるかについて、皮膚モデルを使って、パラベンを与えた細胞と与えない細胞を比較し、遺伝子に対する影響まで調べることによって、皮膚の老化が加速される仕組みを明らかにしました。

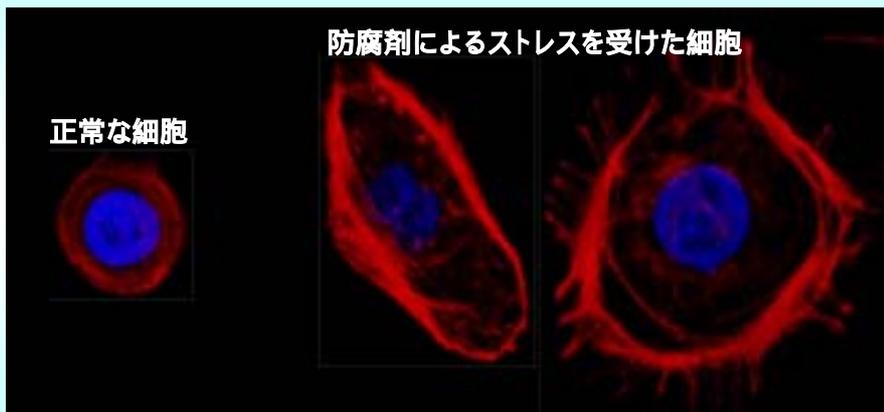
まず、実際の皮膚に、防腐剤が添加された化粧水・乳液と、無添加の化粧水・乳液を数日間使用して皮膚中の防腐剤の量を測定すると、使い続けるうちに防腐剤量は増加し、防腐剤が皮膚に蓄積していくことがわかりました。使用をやめればまた徐々に減っていきます。

皮膚中に蓄積される微量の防腐剤を、今度は培養した細胞に与え、防腐剤を与えない細胞と比較したところ、防腐剤を与えた細胞では老化が加速することが確認されました。遺伝子レベルでも、損傷した遺伝子の存在が確認され、それが老化の加速につながっていることもわかりました。

松熊によると、こうした手法は、医療の分野では一般的に使われていますが、化粧品によるストレスという観点での研究は、世界でもまれということ。「肌にストレスを与えるものは何かを調べるときに、皮膚を上から見て赤くなったとか、かゆくなったということを見るだけでなく、皮膚の奥の方で、本当にストレスがかかっているかどうかを知るための、このような研究が必要になってきます」(松熊)

「ストレスがかかると遺伝子に傷が入りますが、人間の体には修復能力があり、傷が入ったからといってすぐに何か起こるというものではありません。でも、歳を取ると徐々にその能力は落ちてきます。能力低下を加速する要因に、例えば紫外線や、普段使っている化粧品に含まれている化学物質などがあります。普段気がつかない、皮膚の上から見てただけでは分からないことを、私たちはこういう研究手法を使って明らかにしていきます。そうした研究の結果として、無添加はアンチエイジングのキーだということがわかりました」(松熊)

防腐剤のストレスにより変形した細胞

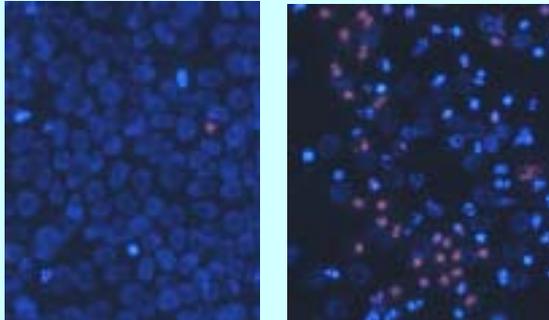


防腐剤によるストレスにより、
細胞の扁平化、老化
老化たんぱく質の増加
バリア機能の低下
(弱い皮膚形成)

洗浄剤による洗いすぎも肌にストレスをかける要因の一つ。肌の角層の表面には、皮脂や水分、アミノ酸や乳酸などがバランスよく混ざり合った天然のクリームのような層があり、これが肌を乾燥から守っています。NMF(天然保湿因子)と呼ばれるこの層はしかし、毎日の洗顔で必要以上に洗い流され、失われてしまいます。

中でも、NMFの構成成分のうち11%を占めるPCA(ピロリドンカルボン酸)は、特に肌の保湿に重要な役割を担っています。これが毎日の洗顔により失われてしまうと、肌が本来持っている保湿力を徐々に弱め、肌荒れを引き起こし、さらにPCAの流出を加速することにつながります。ファンケルはこのPCAの役割に着目して、この成分を指標とした洗浄剤の評価方法を研究し、肌にやさしいクレンジング剤や洗顔料の開発に応用しています。いかに肌にストレスをかけずにスキンケアをしていくか、これが無添加サイエンスの目標なのです。

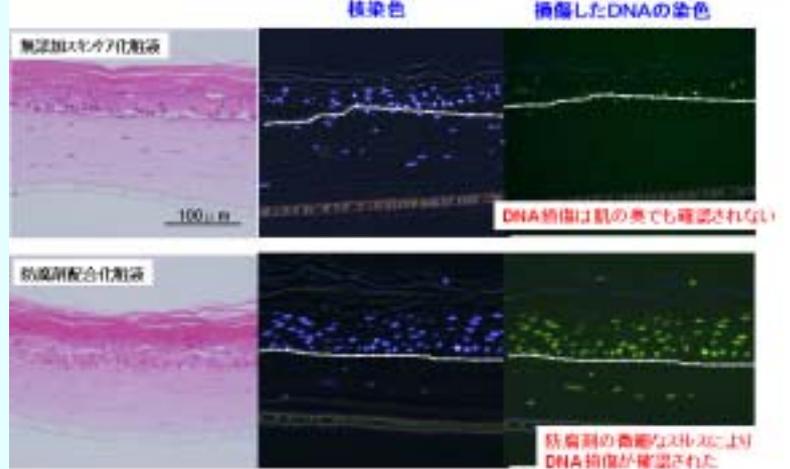
微量のパラベンがDNA障害を加速



〔左〕防腐剤無添加 〔右〕防腐剤添加

微量のパラベン添加によって、DNA障害を起し老化が加速した細胞が増えている。
(画像赤色部分)

DNA損傷の比較



無添加だからこそ実現できる素肌美

肌への悪影響が知られている紫外線は、20歳までに浴びた量で将来の肌のしわの数が決まってしまうと言われるほど、それによるダメージが大きいのですが、例えばそのようなダメージに対しても「早く気付けば気付くほど、回復力を増す方法を提案できるのではないかと考えながら研究しています」と松熊は話しています。「食品なら、最近は健康を考えて国産や無添加、無農薬にこだわる人も多いようですが、化粧品だとそれほどこだわらないのが今の現実です。普段から気をつけるよりも、いざとなったらしわ取りやしみ取りクリームに頼ればいいのか。そうしたアイテムももちろん効果はありますが、例えば無添加と無添加じゃないものがある、同じように使えるものなら無添加を選ぶというように、気負わず生活の一部として、本当に肌のことを考えた化粧品を選択できるようになればいいなと思っています」

たとえほんのわずかのストレスでも、与え続けるうちに肌の再生能力に差が出てきて、違いが明らかになるとすれば、今から肌により優しい選択をすることは、将来にわたっての美しさを手に入れる第一歩といえるのではないのでしょうか。

この考え方を世間に知ってもらうには「ぶれない姿勢を持ち続けること、そしていかにまじめに研究してまじめに伝えるか」に尽きると松熊は話しています。

「例えば、ファンケルがアトピー肌向けに出している化粧品は、皮膚科の先生方からも信頼を寄せていただいています。敏感肌の人でも使えるようにと、積極的な研究をして、先生方に伝えているのですが、ファンケルはこんな研究をしているんだと、そのまじめさとか思想も認めていただいているようです」

日本では「安心・安全」からスタートしたファンケルの無添加化粧品ですが、無添加だからこそ将来にわたる本当の素肌美を実現できるということを、丁寧に伝えてきた結果、中国をはじめとしたアジア市場で、感度の高い消費者の共感を得ることに成功しています。

海外の方に評価されたメイドインジャパンブランドであるファンケルの無添加化粧品。日本市場においても、「安心・安全」の先にある、肌にストレスを与えない無添加化粧品だからこそアンチエイジング効果が高いということを、しっかりとお伝えしていきたいと考えています。